

第5章 福島県浜通り地方流域における具体的な取組事例

福島県浜通り地方流域水循環計画における施策に関わる個別の取組事例とその実施主体の関係を以下に示します。また、これらの取組事例の概要を次ページ以降に示します。

施策に関わる取組と実施主体の関係

施策	個別の取組	実施主体						
		産	学	民		行政		
		事業者	研究機関 教育・	市民団体	住民	市町村	国	県
①都市部の河川の水質改善	河川清掃活動	○		○	○	○	○	○
	流域一貫の一斉水質調査		○	○	○			○
	交流活動の支援			○	○			○
②森・川・海を育む人づくり・地域づくり	環境教育等（せせらぎスクールなど）	○	○	○	○	○		○
	「水との共生」出前講座	○	○	○	○			○
	身近に親しめる水辺づくりの推進			○				○
	防災意識の啓発				○	○	○	○
	水に親しむイベントの実施			○				
	水の作文コンクール				○	○	○	○
	もりの案内人認定制度			○	○			○
川の案内人登録制度			○	○			○	
③水環境団体の取組支援とその活性化 ～人が集う豊かな水辺空間に向けて～	水環境団体活動の支援		○	○	○			○
	水環境団体間の交流活動			○	○	○		○
	「水との共生」出前講座	○	○	○	○			○
	情報の提供							○
	自然環境保護活動の実施		○	○				○
④浜通り地方の水文化の継承	夏井川流域マップの作成 （小川江筋などの先人の知恵・技術紹介）			○				
	浜通り地方の水文化の紹介		○	○	○	○	○	○

■重点施策	①都市部の河川の水質改善	②森・川・海を育む人づくり・地域づくり	③水環境団体の取組支援とその活性化	④浜通り地方の水文化の継承	⑤水循環施策の窓口機能強化
■取組	河川清掃活動				
■実施主体	事業者 ○	大学等	市民・団体 ○	行政 ○	■一般参加 ○ 不可

●浅見川美化清掃活動

冬季を除き NPO 法人浅見川ゆめ会議の会員が、浅見川で毎月第1土曜日に美化清掃活動（ごみ拾い）を実施しています。最近では地球温暖化が原因となる災害が頻繁に発生しており、美化活動を通し環境破壊の知識を自然から学び、一日も早く子供たちが川で遊べる日が来るために活動を継続します。



出典：NPO 法人浅見川ゆめ会議 かじか通信 Vol. 2 3（平成27年5月1発行）

●うつくしまの川・サポート制度

地域の方々が「川」をもっときれいにしたいという気持ちから行われる河川美化清掃等のボランティア活動を支援する制度で、福島県が平成13年度から行っております。

この制度は、近年の、ボランティア活動の活性化や行政への参加意欲の高まりなどを背景として、地域の方々と市町村、県の三者が協働して、河川の清掃、美化活動を行うものであり、川を慈しむ心を育て、地域にふさわしい川づくりを進めるものです。



湯本川 湯本川を愛する市民ネットワーク（いわき市）

参照：福島県河川港湾総室 うつくしま川・サポート制度
<http://www.pref.fukushima.jp/kasen/kawadukuri/kawasupport/kawasupport.htm>

■重点施策	①都市部の河川の水質改善	②森・川・海を育む人づくり・地域づくり	③水環境団体の取組支援とその活性化	④浜通り地方の水文化の継承	⑤水循環施策の窓口機能強化
■取組	流域一貫の一斉水質調査				
■実施主体	事業者	大学等	市民・団体	行政	■一般参加 <input checked="" type="radio"/> 可 <input type="radio"/> 不可

●夏井川上流・中流・下流の団体連携による水質調査および汚濁負荷実態把握

夏井川は源流を阿武隈山系に発し、海に達する延長67kmの二級河川で、上流から河口に至るまで、様々な汚濁負荷の流入により水質が変化します。

夏井川流域の会では上流、支川、下流の活動団体の連携の下、全27地点で地域住民参画による一斉水質調査を実施しています。これにより、流域住民に水の汚れを知ってもらい、事業者、住民、行政等の各主体で水質の改善に向けてできること考えてもらうことが目的です。



2017 夏井川流域一斉水質調査
参加者募集!
 みんなで川の水質を調べよう!

実施日 **平成29年6月4日(日)午前10時** 一斉に水を採取します!

※この日は「全国一斉水質調査」に合わせて行います。
 ※雨天の場合は6月10日(土)に順延となります。

- 集合時間・場所 ~ **午前9時、いわき市小川公民館**
 ※事前申し込みは不要です。当日直接会場へお越しください。
 ※現地での採水にも参加を希望される方は午前8時30分まで集合してください。
 ※終了は午後2時30分ぐらいを予定しています。
- 測定地点 ~ 平・小川を中心とする16地点(流域全体27地点)
- 実施すること
 - 水質調査(COD,アンモニアバックテスト・導電率・透視度・におい など)
 - 水生生物調査(川に入って川の生き物を採取・観察します)
 - 昨年に続き川底の砂の放射性物質濃度も測定します。

● 参加費 : 無料
 ● 準備するもの
 ★ 水にぬれても大丈夫な服装・着替えなど ★ 昼食・飲み物等
 問い合わせ・連絡先

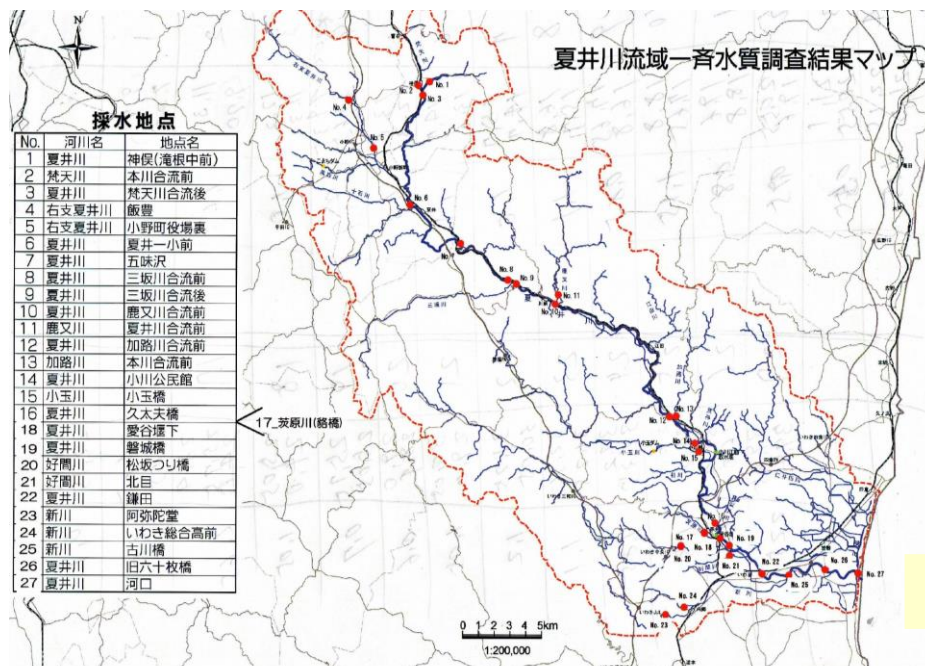
○ 主催 : 夏井川流域の会
 ○ 共催 : 「夏井川流域住民による川づくり連絡会(下流域)」「夏井川をきれいにしてみま専科(川前)」「夏井川上流域連絡協議会(小野町・田村市)」
 ○ 後援 : いわき市(予定)

夏井川流域の会主催、「夏井川流域住民による川づくり連絡会(下流域)」、「夏井川をきれいにしてみま専科(川前)」、「夏井川上流域連絡協議会(小野町・田村市)」共催

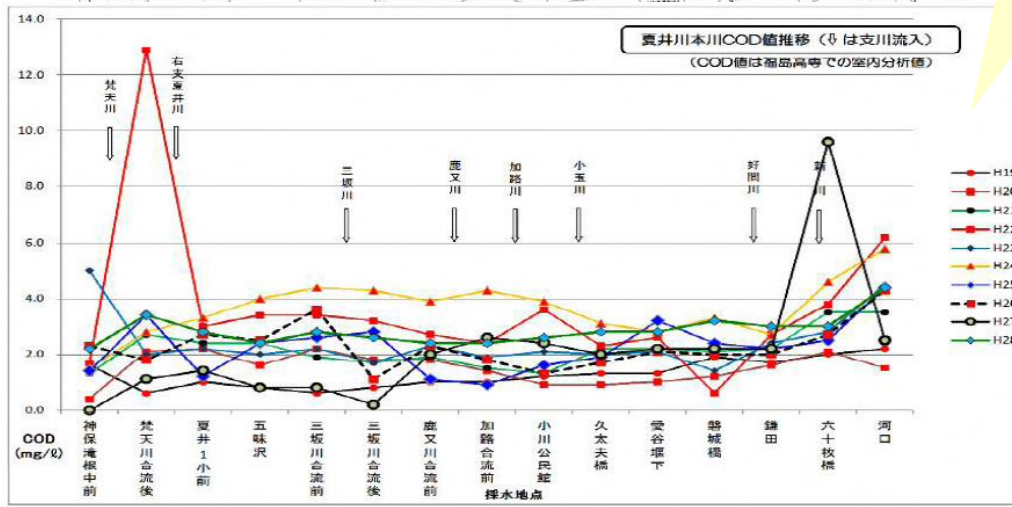
出典 : 夏井川流域住民による川づくり連絡会 川でむすぶ(会報第42号)
<http://blog.natsuigawa-karyu.net/>



子供たちによる水質パックテストの様子



夏井川本川の COD 測定結果 (縦断変化)



パックテストによる水質測定結果

出典：夏井川流域住民による川づくり連絡会 川でむすぶ（会報第 42 号）
<http://blog.natsui-gawa-karyu.net/>

●浅見川、北迫川、折木川の3河川の24時間水質調査

広野町と福島工業高等専門学校が連携して平成28年8月5日に、広野町の浅見川、北迫川、折木川の3河川の24時間水質調査を行いました。各河川で1時間毎に採水する調査を行い、住民の生活サイクルとともに変化する水質変化の特徴について参加された方々と一緒に考え、どのように水環境を守っていくべきかをみんなで考えるよいきっかけとなりました。



出典：NPO 法人浅見川ゆめ会議 かじか通信 Vol. 3（平成28年8月30日発行）

重点施策	①都市部の河川の水質改善	②森・川・海を育む人づくり・地域づくり	③水環境団体の取組支援とその活性化	④中通り地方の水文化の継承	⑤水循環施策の窓口機能強化
■取組	交流活動の支援				
■実施主体	事業者	大学等	市民・団体	行政	■一般参加
			○	○	○ 可 ○ 不可

●上下流連携活動の支援

福島県土地・水調整課では、上流から下流に至る流域の地域住民等の交流を活発にしていけるため、活動の実施について、支援を行っております。

■夏井川における活動状況



■重点施策	①都市部の河川の水質改善	②森・川・海を育む人づくり・地域づくり	③水環境団体の取組支援とその活性化	④浜通り地方の水文化の継承	⑤水循環施策の窓口機能強化
■取組	環境教育等（せせらぎスクールなど）				
■実施主体	事業者 ○	大学等 ○	市民・団体 ○	行政 ○	■一般参加 ○ 可 不可

●夏井川水系好間川での水辺の学校、水生生物調査の実施

川に棲んでいる生き物がどのような環境で生きているかなどを子供たちに知ってもらうために、環境学習会として、水辺の学校や水生生物調査を実施しています。近年では水辺で遊んだことがない子どもたちも多く、子どもたちへの水環境に対する意識の底上げを図ります。



出典：夏井川流域住民による川づくり連絡会 川でむすぶ（会報第42号）
<http://blog.natsuigawa-karyu.net/>

●鮫川流域における自然体験活動の実施

平成27～30年度にかけて、地域の小学校において、ゲンジボタル・ヘイケボタル、メダカやホトケドジョウなどの川に棲む生き物の観察会を実施し、生物の生育・生息環境創出の大切さを学ぶ機会を教育の場に取り込んでいます。



出典：鮫川流域ネットワーク

●身近な川の生きものを調べて、水質の状態を知る。

福島県環境創造センターでは、小・中学校、高等学校、市民団体等を対象に、水生生物による水質調査に参加していただく「せせらぎスクール」を開催しています。

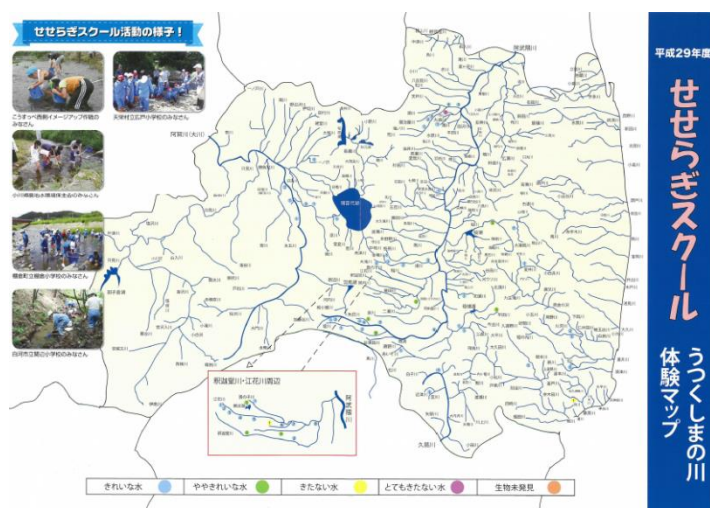
また、「せせらぎスクール」での指導者を養成するため、「せせらぎスクール指導者養成講座」を開催しています。講座は、初級編 2 コース、上級編 1 コースで実施しています。



せせらぎスクールの様子

●調査結果をわかりやすく見える化

平成 29 年度は、県内の 36 団体(延べ 1, 582 人)の参加があり、35 河川 60 地点で調査が行われました。調査結果は、「うつくしま川の体験マップ」としてまとめ、わかりやすく見える化しています。



うつくしま川の体験マップ（平成 29 年度調査結果）

出典：せせらぎスクール・福島県 HP

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/298/seseragi-school.html>

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/298/seseragi-school-shidouya.html>

■重点施策	①都市部の河川の水質改善	②森・川・海を育む人づくり・地域づくり	③水環境団体の取組支援とその活性化	④浜通り地方の水文化の継承	⑤水循環施策の窓口機能強化
■取組	「水との共生」出前講座				
■実施主体	事業者 ○	大学等 ○	市民・団体 ○	行政 ○	■一般参加 可

●「水との共生」出前講座(水生生物調査)

福島県土地・水調整課では、水環境団体等からの要望に応じて、専門家などの講師を派遣し、小学生等県民一般を対象に水生生物調査を通じた環境学習支援を行っています。近年では水辺で遊んだことがない子どもたちも多く、子どもたちへの水環境に対する意識の底上げを図っていきます。

■水生生物調査の様子



参照：「水との共生」出前講座・福島県 HP

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11015c/mizu-demae-annai.html>

■重点施策	①都市部の河川の水質改善	②森・川・海を育む人づくり・地域づくり	③水環境団体の取組支援とその活性化	④浜通り地方の水文化の継承	⑤水循環施策の窓口機能強化
■取組	身近に親しめる水辺づくりの推進				
■実施主体	事業者	大学等	市民・団体	行政	■一般参加
			○	○	○ 不可

●夏井川水系新川ひょうたん島の清掃活動

震災後に土砂が分厚く堆積し、その存在すら知られない状況であった新川ひょうたん島において、島の周辺の土砂を取り除き、さらに島の手前の水みちを開通させ、河川環境の改善を図りました。堤防にはベンチが整備されて休憩する人が多く、流域住民の憩いの場となるように今後も活動を継続します。



出典：夏井川流域住民による川づくり連絡会 川でむすぶ（会報第41号）
<http://blog.natsuigawa-karyu.net/>

■重点施策	①都市部の河川の水質改善	②森・川・海を育む人づくり・地域づくり	③水環境団体の取組支援とその活性化	④中通り地方の水文化の継承	⑤水循環施策の窓口機能強化
■取組事例	防災意識の啓発				
■実施主体	事業者	大学等	市民・団体	行政	■一般参加
			○	○	可・不可

●水災害対策協議会の開催

平成27年9月関東・東北豪雨や平成28年8月の台風10号等により、中小河川でも氾濫が発生し、逃げ遅れによる多数の死者や甚大な経済損失が発生したことを踏まえ、本県では市町村などの関係機関と連携・協力して、減災のための目標を共有し、ハード対策とソフト対策を一体的、計画的に推進するため、平成21年度に設立した県内8方部の「水災害対策協議会」を活用し、平成29年6月までに各方部で第1回協議会を開催しました。

さらに、平成29年12月までに各方部で第2回協議会を開催し、本協議会を水防法に基づく都道府県大規模氾濫減災協議会として位置づけ、今後5箇年（2017（平成29）～2021年度）における各方部の減災に係る取組方針を策定しました。

今後は、毎年出水期前に協議会を開催し、進捗状況の確認や見直しなど、継続的にフォローアップを行います。

参照：福島県河川計画課 HP 「水防災意識社会の再構築に向けた福島県の取組について」
<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/41045a/mizubousaiishikisyakai.html>

●豪雨から子どもの命を守る出前講座

河川での安全な遊び方や気象変化に伴う水位上昇の危険性について学習し、自らの命を守るための知識を身につけることを目的に、総合的な学習の時間等を活用した出前講座を行っています。



参照：福島県河川計画課 HP 「集中豪雨から命を守るプロジェクト事業」
<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/41045a/inotipro.html>

■重点施策	①都市部の河川の水質改善	②森・川・海を育む人づくり・地域づくり	③水環境団体の取組支援とその活性化	④浜通り地方の水文化の継承	⑤水循環施策の窓口機能強化
■取組	水に親しむイベントの実施				
■実施主体	事業者	大学等	市民・団体 ○	行政	■一般参加 ○・不可

●夏井川かわくんだり、アクアボールによる親水イベント

水の流れを体感してもらい、水の大切さや水に対する地域住民の意識向上を図ることを目的として、夏井川の源流から河口までの区間を対象とした川下りや、親水階段区間でのアクアボールなどの親水イベントを行っています。



出典：夏井川流域住民による川づくり連絡会 川でむすぶ（会報第43号）
<http://blog.natsuigawa-karyu.net/>

■重点施策	①都市部の河川の水質改善	②森・川・海を育む人づくり・地域づくり	③水環境団体の取組支援とその活性化	④浜通り地方の水文化の継承	⑤水循環施策の窓口機能強化
■取組	水の作文コンクール				
■実施主体	事業者	大学等	市民・団体	行政	■一般参加
			○	○	○ 不可 ※中学生

●水について考える

福島県土地・水調整課では、水の日（8月1日）、及び水の週間（8月1日～7日）の行事の一環として、広く水に関する関心を高め、理解を深めることを目的として、本県の次代を担う中学生を対象に水の作文コンクールを実施しています。

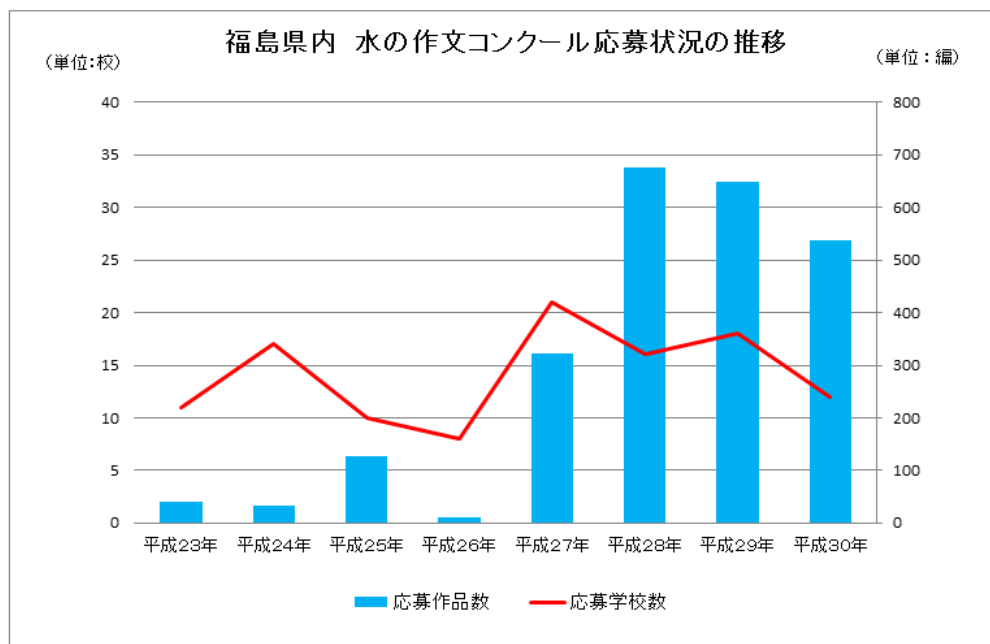
平成30年に行われた第40回コンクールにおいては、県内12校から過去3番目の多さとなる538編の御応募をいただきました。

第40回 全日本中学生 水の作文コンクール

水について考えよう！

"水の惑星"と呼ばれる地球。でもその水は、無限ではありません。海から蒸発して雲になり、雨や雪となって地上に降り、川から再び海へと循環しているのです。地球上をめぐる限られた水を、人々は身近な生活のほか、農業や工業など多くの場面で便利に使っています。

その一方で、ときには洪水や水不足の被害に見舞われることもあります。水の恵みを利用し、災害を防ぐために、はるかな昔から現在まで、人々はさまざまな努力をしてきました。水とのつきあい方の工夫は、町のいたる所で目にすることができます。あなたにとって、水とはどんなものですか？ 暮らしのなかでの体験や、授業で学んだことや調べたことをもとに、水についての考えを作文にまとめてみましょう。



参照：水の作文コンクールの入賞作品集・福島県 HP

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11015c/mizunosakubun.html>

■重点施策	①都市部の河川の水質改善	②森・川・海を育む人づくり・地域づくり	③水環境団体の取組支援とその活性化	④浜通り地方の水文化の継承	⑤水循環施策の窓口機能強化
■取組	もりの案内人認定制度				
■実施主体	事業者	大学等	市民・団体	行政	■一般参加
			○	○	○ 不可

●県民参加の森林づくり

「福島県もりの案内人」は、自然観察会や野外活動、森林づくりなどを通して、一緒に学びながら森林の役割や大切さを広く県民に伝えていくボランティアによる指導者で、福島県森林保全課で養成講座を実施し、認定を行っています。

新緑萌える春、木陰がさわやかな夏、色鮮やかな秋、すべてを白い静寂で包む冬、四季の森林とのふれあいを通して、森林の役割や重要性を県民に広く伝える指導者として活躍しています。



福島県もりの案内人

参照：福島県もりの案内人・福島県 HP

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36055d/kenminsanka.html>

■重点施策	①都市部の河川の水質改善	②森・川・海を育む人づくり・地域づくり	③水環境団体の取組支援とその活性化	④浜通り地方の水文化の継承	⑤水循環施策の窓口機能強化
■取組	川の案内人登録制度				
■実施主体	事業者	大学等	市民・団体	行政	■一般参加 <input checked="" type="radio"/> 可 <input type="radio"/> 不可

●県民参加の水辺体験学習

河川や水環境に関する知識を持った方に「川の案内人」として人材バンクに登録していただき、要望に応じて各建設事務所で日程等を調整し、小中学校の総合的な学習の時間・課外活動等や、水環境団体等に派遣するものです。

川の案内人制度は、若年層の水環境への意識啓発を図ると共に、水環境団体の活動の幅を広げる支援を行うことで、水循環の健全化を図ることを目的としています。



川の案内人のパンフレット

参照：川の案内人・福島県 HP

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/41045a/annainin00.html>

■重点施策	①都市部の河川の水質改善	②森・川・海を育む人づくり・地域づくり	③水環境団体の取組支援とその活性化	④中通り地方の水文化の継承	⑤水循環施策の窓口機能強化
■取組事例	水環境団体活動の支援				
■実施主体	事業者	大学等	市民・団体	行政	■一般参加
		○	○	○	○ 可

●水環境団体の活動活性化の支援

福島県土地・水調整課では、大学等と連携して水環境団体の活動に若い世代の参画を促進するなど、水環境団体の人材育成や活動活性化の支援を行っております。

■若い世代の参画による活動支援

福島県主催
緑の水源地再生チャレンジ
参加者募集！！

赤面山で植林活動
ワチザザリガニ調査

Mission1
眺望がよい赤面山で、野営しながらの植林活動
→水源地美観性の回復

Mission2
紅葉が数週間前の河原川周辺を散策
→地球を知り学ぶ

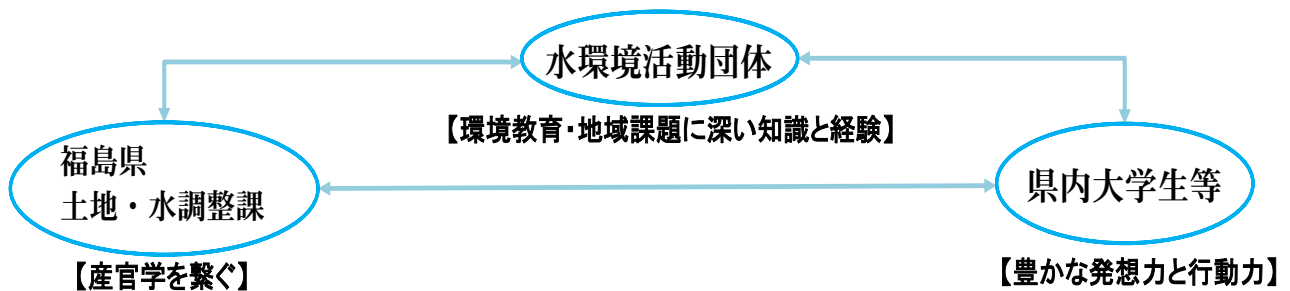
Mission3
品種の外来生物のワチザザリガニの調査採集
→地球生物多様性の回復

地域を知って、手で・体験して
繋がり
貢献する

参加費：無料
募集対象：大学生及び短期大学生
日時：平成30年11月4日(日)
※詳細は裏面参照



■参画イメージ



■重点施策	①都市部の河川の水質改善	②森・川・海を育む人づくり・地域づくり	③水環境団体の取組支援とその活性化	④中通り地方の水文化の継承	⑤水循環施策の窓口機能強化
■取組事例	水環境団体間の交流活動				
■実施主体	事業者	大学等	市民・団体 ○	行政 ○	■一般参加 ○ 可

●福島県水環境団体交流会

福島県土地・水調整課では、福島県水環境活動団体交流会を通して、県内水環境団体の活動事例発表や意見交換によって交流を促進し、活動を活発化させる取り組みを支援しています。

交流会開会式



交流会講義状況



交流会集合写真



現地調査状況(伊南川)



現地調査状況(伊南川)



現地調査状況(ひめさゆり)



■重点施策	①都市部の河川の水質改善	②森・川・海を育む人づくり・地域づくり	③水環境団体の取組支援とその活性化	④浜通り地方の水文化の継承	⑤水循環施策の窓口機能強化
■取組	「水との共生」出前講座				
■実施主体	事業者 ○	大学等 ○	市民・団体 ○	行政 ○	■一般参加 ○ 不可

●「水との共生」出前講座(勉強会等)

福島県土地・水調整課では、水環境団体が行う勉強会や講演会の目的に応じて、専門家などの講師を派遣し、水環境団体の取り組みを支援しています。

■勉強会や講習会の様子



参照：「水との共生」出前講座・福島県 HP
<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11015c/mizu-demae-annai.html>

●夏井川の「川ばた会議」による講演会、意見交換会の開催

夏井川では年に1回程度の頻度で、流域住民を対象とした「川ばた会議」を開催し、学識経験者による講演会や流域で活躍する市民団体や事業者等を交えた意見交換会を実施し、水環境に対する基礎知識の習得や意見交換による情報共有を図っています。

川ばた会議

水辺で安全に遊ぶために
(講習会)

講師：塚原俊也氏 (NPO法人川に学ぶ体験活動協議会(RAC)トレーナー)
※RAC: River Activities Council

日時 2月24日(土)
9:00～12:30
※8:45受付開始

場所 いわき市文化センター
4階大会議室

内容 「リスクマネジメント講習会」
～水辺の事故の未然防止の考え方

主催：夏井川流域の会、夏井川流域NW

参加料：無料

【申込方法：問い合わせ先】下記まで、「氏名、連絡先等」をお知らせ下さい。
(2月21日までに下記宛にお申し込み下さい。) ※先着：50名様
様本番一 TEL & FAX : 0246-22-2621, Email : khaa0823@hotmail.co.jp

○氏名：
(所属団体等：)

○連絡先：

重点施策	①都市部の河川の水質改善	②森・川・海を育む人づくり・地域づくり	③水環境団体の取組支援とその活性化	④浜通り地方の水文化の継承	⑤水循環施策の窓口機能強化
■取組	情報の提供				
■実施主体	事業者	大学等	市民・団体	行政 ○	■一般参加 可 不可

●HPや水環境ニュースでの情報提供

福島県土地・水調整課では、HPや水環境団体に提供するニュースレター「水環境ニュース」等で、流域の魅力や水環境活動の取組状況、水や水辺の放射性物質に関する情報等を発信し、水環境活動等の取組を支援しています。



水環境ニュース



福島県土地・水調整課 HP「ふくしまの水に関する情報」

出典：水環境ニュース・福島県土地・水調整課 HP

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11015c/mizu-news.html>

「ふくしまの水に関する情報」福島県土地・水調整課 HP

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/tochimizu/>

重点施策	①都市部の河川の水質改善	②森・川・海を育む人づくり・地域づくり	③水環境団体の取組支援とその活性化	④浜通り地方の水文化の継承	⑤水循環施策の窓口機能強化
■取組	自然環境保護活動の実施				
■実施主体	事業者	大学等	市民・団体	行政	■一般参加
		○	○	○	○ 不可

●鮫川流域でのカジカの飼育保護

鮫川流域では、自然環境の変化により絶滅の危機にある清流に棲む代表的な魚であるカジカの保護のため、7年以上飼育に取り組んでいます。



出典：鮫川流域ネットワーク

■重点施策	①都市部の河川の水質改善	②森・川・海を育む人づくり・地域づくり	③水環境団体の取組支援とその活性化	④浜通り地方の水文化の継承	⑤水循環施策の窓口機能強化
■取組	夏井川流域マップの作成（小川江筋などの先人の知恵・技術紹介）				
■実施主体	事業者	大学等	市民・団体	行政	■一般参加
			○		◎ 不可

●夏井川流域マップの作成

夏井川では、関係団体、地域住民との勉強会や意見交換会を開催し、「夏井川流域マップ」の作成等を通して、先人から受け継いだ水文化や各主体による流域活動の情報発信、河川環境保全への提言により、地域住民や子供たちに「伝える活動」に取り組んでいます。

03 水を利用する

夏井川流域の水は、飲み水、農業、工業、発電など、様々な利用されています。その総量は、一年間でこだま湖約60杯分にもなります。また水を使うだけでなく、その風景に癒されたり、楽しんだりすることにも利用しています。

発電への利用 ～水力発電所～
夏井川流域には中流域を中心に10箇所の発電所があり、私たちが使う電気をつくっています。

農業への利用 ～先人から受け継ぐ水の利用方法～
小川江筋
田んぼや畑に水を引くための水路を「用水路」といいますが、いわき地方ではこれを「江筋」と呼んでいます。小川江筋は全長約30kmの水路です。下小川・間場地点で夏井川を堰止めて水を取り、小川から田舎町北部まで流れて夏井川の左岸（川の流れる方向を見て左側のこと）954haの農地をかんがっています。約350年ほど前の江戸時代、磐城平瀨の沢村勘兵衛が、内藤忠興公の命を受けて工事に取組みました。当時は今のようないくすもなかったため、夜に提灯をともして高低を調べたと伝えられています。掘り始めてから約3年3ヶ月で小川江筋が完成しました。

小川江筋取水堰
川の流れに対して斜めに設置されている堰を「斜め堰」と呼びます。小川江筋の取水堰は、1654（慶安4）年に築かれた現存する最も古い斜め堰で、現在も木材を使った昔の構造「木工洗床（もっこうらんしゅう）」を残しています。

愛谷堰
沢村勘兵衛に従っていた三森治右衛門（みもりじろうえもん）が工事に取組みました。約120mの堰と約18kmの愛谷江筋で水を引き、夏井川右岸510haをかんがっています。

水車
小川江筋や愛谷江筋が開削される以前は、田へ水を汲み上げるために、足踏みの水車を使っていました。江筋が出来てからは、藁仕事や粉引きに使うための水車が作られました。

魚道
夏井川には川の水を利用するための堰がありますが、川の流れが速（ささぎ）られ魚が自由に行き来できません。そのため魚が堰を越えられよう、魚道（ぎょうどう）が設けられています。しかし、魚道の入り口が堰によってわかりにくかったり、水の勢いが強く魚が上ることができないなどの課題があり、機能性の魚道をつくるための取組みが行われています。

川の水を汚す原因
私たちの様々な活動が川の水に影響を与えています。私たちの飲み水は川からの水です。

田畑の農業、家庭からの排水、ボイ捨てのゴミ、バーベキューのゴミ、工場の土砂、工場からの排水

豆知識 1 舟運
夏井川では中流域が深谷のため、舟運はそれほど盛んではありませんでした。それでも内藤家が大名であった江戸中期までは、下流の平野部では米や木材の運搬に利用されていました。

豆知識 2 山の恵み
夏井川流域には多くの湧水、温泉があり、恵みの水となっています。あぶくまの「ふるさと水30選」にもなっている赤井堀私法水をはじめ、一杯湧水や八（こわ）湧水など、おいしい水が数多くあります。

豆知識 3 水を敬う
夏井川は多くの河川と同様に、恵みや災いをもたらす川であり、様々なものを祭る川として聖なる川としての側面も持っています。専修寺は、東北地方の浄土宗信仰の中心寺院として築かれました。修行として夏井川の川に浸かり、般若心経を誦えたと伝えられています。

＊写真提供：阿部 幸男 氏
イラスト(全頁)：渡藤 尚子

出典：夏井川流域の会 HP
<http://www.natsui-gawa.net/>

■重点施策	①都市部の河川の水質改善	②森・川・海を育む人づくり・地域づくり	③水環境団体の取組支援とその活性化	④浜通り地方の水文化の継承	⑤水循環施策の窓口機能強化
■取組	浜通り地方の水文化の紹介				
■実施主体	事業者	大学等	市民・団体	行政	■一般参加 <input checked="" type="radio"/> 可
		○	○	○	

●後世に残したい“ふくしまの水文化”の選定

地域に伝わる水文化の持つ高い価値に改めて着目し、人と水のつながりを再認識することで、水資源や水環境の保全に関する理解を深め、水を大切に使う意識の醸成を図るとともに、水を介した魅力ある地域づくりを進める一助とするため、“ふくしまの水文化”、“特に後世に残したいふくしまの水文化”を選定、紹介しています。

浜通り地方の“特に後世に伝えたいふくしまの水文化”一覧（再掲）

テーマ	種類	水文化
生活の中の水文化	祭事・信仰等	鹿島御子神社の「火伏せの神事」（南相馬市）、相馬野馬追（野馬懸）（南相馬市）、日吉神社の浜下り（南相馬市）、大滝神社の浜下り（楡葉町）、※火防祈禱祭 裸参り（浪江町）、※大倉の葉山祭り（飯舘村）、沼ノ内の水祝儀（いわき市）、磐城大国魂神社の御潮採り神事（いわき市）、飯野八幡宮の流鏝馬（いわき市）
	伝説・伝承等	作見の井戸（飯舘村）、賢沼と龍門寺の井戸（いわき市）、波立海岸と鱒ヶ淵の伝説（いわき市）
	湧水・清水	赤井嶽の弘法水（いわき市）
水に関わる産業	伝統工芸	遠野和紙（いわき和紙）（いわき市）
	利水施設	御仕法によるため池（宗兵衛堤）（相馬市）、御仕法による用水路（七千石用水、萱浜用水、小高江）（南相馬市）、愛谷江筋（いわき市）、小川江筋取水堰江筋（いわき市）

※印は、東日本大震災及び原発事故の影響により、損壊や休止があるものを示す。



火伏せの神事



遠野和紙



小川江筋取水堰

出典：選定ふくしまの水文化・福島県 HP

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11015c/mizu-bunka.html>